

地域包括ケアに関する取組み

東 区

〇概況

令和7年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 東区は市内で最多の人口で、増加傾向は継続。多々良川や三日月山、海の中道等、豊かな自然に恵まれる一方、アイランドシティや千早・香椎駅周辺、九大箱崎キャンパス跡地等、新しいまちづくりが進み、若い世代の転入も多く、校区により違いがある。また4つの大学があり、学生も多い。

【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率は、50%を超える校区がある一方、4%程度の校区もある等、地域差が大きい。

【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 丘陵地の校区や市営住宅・県営住宅等の大規模団地が多い校区では、高齢世帯が増えているため、地域での担い手不足も課題となっている。また、介護サービス事業所等数が少ない、オンライン診療に際し通信障害が生じる等、地域によって社会資源等の状況が異なる。なお、東区全体を14事業所ネットワークがカバーしており、地域での生活支援・介護予防活動について、地域と連携した取組を行っている。

人口（人）	316,867
高齢者数（人）	73,130
高齢化率（%）	23.1
小学校区数	31
いきいきセンター 圏域数	11

〇地域包括ケアに関する現状と課題

〇医療・介護：多職種連携研修会を3回実施。テーマは1回目「2024年度介護報酬改定における課題とその対策」、2回目「地域包括ケアシステムにおける小規模多機能型居宅介護の実践」、3回目「権利擁護への対応、あなたならどうする？～様々な職種の着眼点や対応について～」とした。2回目、3回目では、グループワークを実施。多職種で直に意見を交わす機会になり顔の見える関係づくりができた。また、様々な職種の意見を聞くことで新たな気付きになっている。今後も多職種連携企画委員会で、在宅医療・介護の市民啓発事業と研修会についてテーマ・実施方法を検討し、多職種間の連携強化につなげていく。

〇生活支援・介護予防：R5年度に引き続き、R6年度もブロック支援病院へのヒアリングとブロック支援病院実務担当者交流会を開催した。また、事業所ネットワーク交流会にブロック支援病院の参加を呼びかけ、全6病院の参加があった。R7年度もブロック支援病院に事業所ネットワーク交流会への参加呼びかけを継続し、更にMSWがいる病院への参加呼びかけを実施し連携の広がりを図る。

〇若い世代から、認知症の正しい理解促進を図るきっかけとして、認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座※「認知症声かけ訓練」等を、事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと協働して進めている。※「認知症声かけ訓練」では、企画段階から地域と事業所ネットワーク等が顔を合わせて地域課題について協議する場を設けており、地域特性に応じた内容になるよう工夫して取り組んでいる。

※R7年度から「認知症声かけ体験」に名称変更

1. 令和7年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

(1) 東区認知症に優しいまちづくり事業

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる東区を目指し、若い世代を含めすべての区民が認知症を正しく理解できるよう、地域・大学・事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと連携し、認知症の普及啓発等を行う。

東部地域3大学（福工大、九産大、福女大）と連携した認知症啓発事業

認知症サポーター養成講座
各大学の要望に合わせた講座（声かけ体験の要素を含む）を実施予定



事業所ネットワークも大学生と一緒に講座を受講

東区認知症 オレンジちゃんねるの広報周知



HP紹介動画を作成し、デジタルサイネージ等で周知予定

企業等とタイアップ

東区内のスーパーや金融機関等で啓発促進



令和6年度は、イオンモール香椎浜で講座を実施

(2) 医療・介護・地域との連携強化

- 6つのブロック支援病院に加え、地域貢献を行っている病院を含めた「情報共有・意見交換」の場を作る。
- 事業所ネットワーク等の活動の活性化、相互の協力・連携体制の構築、つながりづくりのために、交流会を開催する。

事業所ネットワーク等交流会



取組事例発表

【令和7年3月参加者】
事業所ネットワーク、ブロック支援病院、いきいきセンター、認知症ライフサポートワーカー、区社協CSW、福岡100プラザ東、福岡オトナビコーディネーター



事業所ネットワークの合併について報告（香椎東スマイルネットワーク+下原ともづくりの輪）

2. 令和6年度の取組み状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】認知症がある単身生活の方、障がいがある家族へも支援が必要な方、キーパーソン不在等、支援が必要な事例の会議を開催。ケアマネや事業所の他、警察・住宅関連・金融機関・区障がい者基幹相談支援センター等にも出席を依頼し、世帯全体の課題解決に向けた連携を行っている。

個別支援会議開催状況 ・会議回数：154回（うち介護予防型個別支援会議32回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

◎ 事業所ネットワーク×地域で介護フェスを開催



「地域にある事業所を校区住民に知ってほしい」という地域の声を受け、香住丘校区と香椎・香住ケ丘さくらネットで介護フェスを実施。（来場者223名、31事業所・団体、協力スタッフ55名）

◎ 事業所ネットワーク×地域でインクルーシブ防災訓練を実施

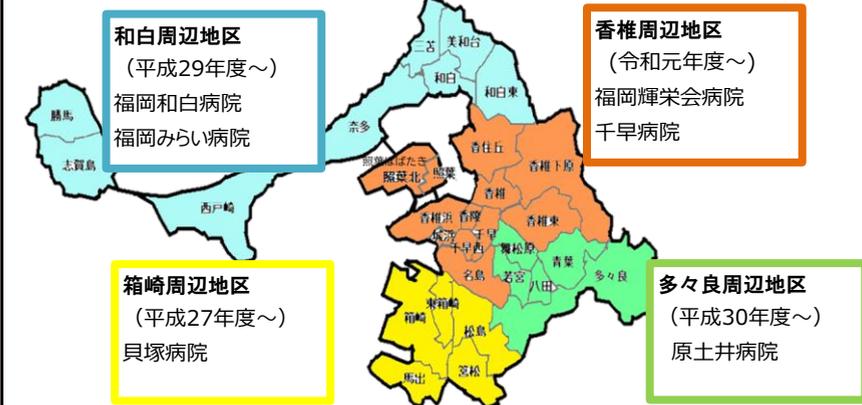


香椎下原校区で開催した「インクルーシブ防災訓練」に下原ともづくりの輪が参加。要支援者の自宅から避難所まで、専門職が避難誘導を行った。また、体育館で、介助器具の展示や電動車いす・シニアカーの体験会を実施。

高齢者地域支援会議 開催状況 ・会議開催校区（地区）数9校区（地区）、延べ回数：10回
・内容：高齢者の実態・課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策や取組みの検討。

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

ブロック支援病院・事業所ネットワーク・地域との連携



区内4ブロックにおいて、ブロック支援病院、医療・介護専門職、地域で生活支援・介護予防等の実施に努め、また、地域包括ケア連携会議等を実施している地区もある。令和6年度は、引き続きブロック支援病院同士の連携を図るために、ブロック支援病院実務担当者交流会を開催。また、ブロック支援病院が事業所ネットワーク等交流会に参加し、事例発表を行うなど、事業所ネットワークとの連携・つながりづくりが進んでいる。

圏域連携会議開催状況 ・会議回数：5回
・「支援拒否」「複合課題」「認知症」等をテーマに高齢者の見守りや支援体制についての会議を実施。

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア推進会議開催状況 ・区地域包括ケア推進会議：1回
・部会 ①在宅医療・介護部会：1回、②権利擁護部会：1回、③生活支援・介護予防部会：1回
高齢部門と障がい部門の連携強化、地域と医療・介護の専門職がつながる場が必要な点について、市推進会議に報告した。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	東区医師会、東区保健福祉センターの共催で開催。（3回、計269名参加）
市民向け在宅療養シンポジウム	地域住民のための東区在宅療養シンポジウム2024「愛で支える価値ある介護」をテーマにトークセッション「介護費用の現実と対応策」を開催。（1回、116名参加）
同一業種による連絡会への出席 ①訪問看護 ②小規模多機能 ③ケアマネ ④グループホーム	医療や介護連携に関する情報提供や課題の確認、家族の会への支援を行った。①～④共に継続し後方支援を行う。④令和4年度よりGH職員の交流の機会として東区GH情報交換会を企画、開催。令和6年度は3回/年の後方支援として、認知症に関する情報提供や研修講師の紹介等を実施。
事業所ネットワーク	・地域にある福祉施設・介護事業所・医療機関等がネットワークをつくり、ネットワーク内で顔が見える関係性を築くとともに、地域の健康づくり（出前講座、体操講師等）や生活支援・買物支援等にボランティアとして協力している。 ・令和7年3月末現在、14団体（令和7年度から13団体）が結成され、東区の全校区にて活動を行っている。 ・障がい者基幹相談支援センターや障がい関連事業所等が参加する事業所ネットワークも増えている。
よかトレ実践ステーション登録推進	R6年度末現在、30校区、193か所を創出している。
ロコモ予防啓発事業	①ロコモ予防啓発シールの作成・配布（区内小学校等、約2万枚）②ロコモ啓発動画の配信 ③イベントを活用した啓発活動（なみき芸術文化祭、アイランドシティフェスティバル等）